

# 伏

伏地区は天神橋北側の国道426号堤防沿いに位置する集落で、従来から住んでいた世帯と新しく入居した世帯とがほぼ半数の割合で、区民約280人が支え合い助け合って暮らしています。



## <伝統・文化> 伏天満宮

伏天満宮は、学問の神様・菅原道真を主祭神とする神社で、明治6年（1873年）10月に村社に列せられた。円山川の埋立てにより昭和6年（1931年）に本殿を移転改築し、常殿拝殿が新築された。

神社には神輿もあり3年に一度、地区内を巡行する「神輿渡御」が行われている。

- 所在地 豊岡市伏字天神島687
- 主祭神 菅原道真
- 創立年月日 不詳



<天満宮鳥居>



<天満宮拝殿>

## <旧施設> 天神橋簡易水道施設

天神橋簡易水道組合は昭和39年（1964年）、中筋5地区（沖加陽、下加陽、清冷寺、伏、八社宮）と隣接する新田5地区（今森、江本、大篠岡、木内、駄坂）の共同により設立され、その給水施設が伏天満宮南側（現在の駐車場・広場）に建設された。

これらの地域は長い間、飲料水を掘り抜き井戸等に依拠していたため、衛生上また文化生活上の問題を残していたが、市水道事業所の指導協力を得て、約3,000万円の費用を投じて給水施設や各地区への配管工事が行われ、昭和39年（1964年）4月に完成通水した。

また、その2年後の昭和41年（1966年）には給水エリアを新田地区の河谷、中谷まで拡張し、12地区に給水することとなった。

しかしながら、通水から数年後、徐々に浄水に鉄分が混入するいわゆる「赤水」状態となることが多くなり、「ろ過装置」の設置など種々の対策が講じられたがその効果が見られず、やむなく昭和60年（1985年）には別の水源を探索し移行した。

創設当時の給水戸数は500戸で、30年後の平成6年（1994年）には1,100戸を数えるに至ったが、市の新たな上水道並びに下水道整備計画により、当該地域は市上水道へ編入することとなり、平成15年（2003年）4月に天神橋簡易水道組合は解散することとなった。



<伏天満宮前広場の記念碑>



<解散時の天神橋簡易水道施設>

## <人物1> 郷土振興功労者 故金澤保氏

金澤保氏は、明治44年（1911年）2月11日、父・金澤彦太郎様、母・まつ様の五男二女の四男として豊岡市伏にて生誕される。昭和8年（1933年）、22歳の時に大阪へ出られ、そして苦難難行を重ねられ事業者として成功される。

氏は、中筋尋常小学校同窓会で当時の中筋地区の現状を知ることとなり、同窓生の働きかけなどもあって、中筋地区の文化向上、福祉の増進を図ることを目的として、とりわけ幼稚園・小学校教育や老人福祉（敬老会）を永年にわたり援助するために1千万円の基金を拠出いただき、昭和46年（1971年）2月12日に「財団法人中保会」が設立された。

その後も中筋公民館の建設にかかる費用や小学校の備品購入等についても多額の私財を投じていただくなど、生涯にわたり出身地である中筋地域の振興に多大な貢献をいただいた。氏は、昭和59年（1984年）2月に逝去されたが、その後も氏の意思を引継がれた妻の貞子様、長男の一三様からも中筋地区並びに伏地区に対し多額の資金の提供をいただいた。

（参考/金澤保氏の業績記録…大字能夫氏記）

## <人物2> 柳製品職人 藤原艶子氏

昭和21年（1946年）生まれ

藤原艶子氏は40代半ばで柳製品づくりを始められ、以来30年にわたりその技術を磨かれ、多くの作品展で入賞を収められている。その製品はカバンストリート「アルチザン」等で展示・販売されている。柳製品の作成にあたっては、細工の材料である柳を自家栽培され、刈り取りから乾燥そして編み上げにいたるまで、工程のすべてを手作業で行われている。

○主な受賞歴

平成8年3月	杞柳編組教室作品展	技術賞「乱れかご」
平成10年3月	杞柳編組教室作品展	技術賞「飯行李」
平成10年3月	杞柳編組教室作品展	豊岡杞柳細工伝統工芸士会会長賞「書類ケース」
平成11年3月	杞柳編組教室作品展	技術賞「2重編み花かご」
平成15年10月	2003きんき伝統工芸品フェスティバル特別企画展	(財)伝統的工芸品産業振興協会会長賞



<藤原艶子氏の柳製品>



<自家栽培中の柳>